



海外在住優秀者賞

「Early Japanese Immigration to the U.S.」

アメリカ・ミネアポリス日本語補習学校

中1 Michael Erlewine (マイケル アーリーワイン)

要約 19世紀の終わりと20世紀にかけての日本からの移住者は、アメリカで多くの苦勞を強いられました。彼らはみんな、同じ希望を抱いて渡米しましたが、その結果は様々でした。アメリカでの生活は、日本での経済的な問題を忘れることができたといえ、容易ではありませんでした。成功した人もいればそうでなかった人もいます。彼らが何の目的で移住したか、どんな業績を残したかはともあれ、彼らにとってアメリカは生涯忘れ得ない経験となっています。



アメリカにおける日本からの移住者に関する問題をテーマにしたこの作品は、着眼点がすばらしく、研究物としての価値が非常に高い作品です。参考文献を上手に利用しながら、きちんと自分の意見をまとめています。また、引用文の書き方や文章のスタイルなど、レポートとしてまとめる力が高く評価されました。

英語部門

総評

英語部門は今年が初めての実施でした。小学生が英語に接する機会、学校、英会話教室、地域の活動などがあげられます。このような様々な英語教育の環境のなかで、応募点数こそ少なかったのですが、個性あふれる作品が集まりました。作品のレベルはまだこれから段階です。みなさんのがんばりと指導される先生方の助力をおおいに期待しております。

入賞

「英語が使われている国々の生活や文化（イギリス、アメリカ合衆国）」

愛知県・愛知教育大学附属岡崎小学校 5年 柏木 沙友里

言葉や生活習慣に対して非常に関心が高い作品です。おじぎや握手、ジェスチャーなど言葉以外のコミュニケーションにも目を向けて考察しています。

「English Books And I ～私が影響を受けた英語の作品～」

静岡県・浜松市立蛸塚中学校 1年 岡崎 玲子

今までに読んだ英語の本が、日本語ではどういうタイトルで訳されているか、47名の著名作家から玲子さんが読んだ163冊を根気よく調べています。

「英文字頻度調査」 東京都・啓明学園中学校 2年 千葉 久義

中学1、2年の教科書から、2万文字にもおよぶ英文字の頻度を調査しています。英文字だけでなく、単語で調査するとさらに深みのある考察ができると考えられます。

自由研究のワンポイントアドバイス

英語部門の作品は初めてということもあり、どういう作品にしようか迷われた方もいると思います。そこで、今後英語部門に応募していただくみなさんに、どういう点に気をつけるとよいか、先生からのアドバイスを紹介しましょう。

○スピーチ

- ・難しい内容を英語で表現しようとするよりも、話す単語の意味を理解してスピーチすることが大切です。そうすれば、発音やアクセントが明確となり確実に相手に伝わります。
- ・第17回のテーマは「自己紹介」「学校生活」などの身近な内容から選択することになりました。発表したい内容を自分の言葉でスピーチするとよいでしょう。
- ・スピーチ（作文）が苦手な人は、簡単な本や絵本、詩などの朗読や暗唱でもよいと思います。

○レポート

- ・調べるテーマを明確にしましょう。また、それを調べることになったきっかけや疑問（動機）→調査の経過→結果→結果に対する考察→新たな疑問という形式を具体的にまとめるとわかりやすいでしょう。
- ・新聞記者になったつもりで、先生や身近な外国の人びとに積極的にインタビューしてみてもよいと思います。

みなさんのたくさんの応募をお待ちしております。